

令和7年度使用第2回玉野市教科用図書選定委員会 会議録

開催日時：令和6年7月23日（火）9：00～16：50

開催場所：玉野市庁舎 4階 第1委員会室

出席者 9名

欠席者 なし

<内容>

1 開会（委員長）

2 経過報告

（事務局）6月3日の第1回選定委員会後、6月7日に第1回教科用図書研究委員会を開催し、見本本が届けられた全ての教科書について、調査研究を開始。

6月14日から7月3日まで、教科用図書見本本展示会を開催。

7月24日に、第2回教科用図書研究委員会を開催し、協議・調査・研究をとりまとめ、全ての教科書について研究報告書を作成した。

3 採択に係る意見書について

（事務局）教科書見本本展示会において、今回、提出された意見書について報告。

4 説明・協議

（事務局）種目ごとに、研究委員の報告を聞いた上で質疑応答し、研究委員を一時退席させて協議を行うことについて説明。

（事務局）本会の会議録の概要を後日ホームページ等で公開することを了承いただいた。

（委員長）了承する。

【国語】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・全社ともあまり遜色がない印象であった。その上で各社の特徴的な内容は次のとおり。
- ・教育出版 → 二次元コードが少ない。説明文が多く、文章の構成は充実。ページ数が必要以上に多い。
- ・東京書籍 → 思考ツールがやや少ない。理科的なレポートを取り扱う教材が少ない。キャラクターが出てきて会話形式になっているが、わかりやすさの面では、メリットデメリット両面があるように感じる。
- ・光村図書 → 魅力的な教材が多い。戦争を題材とする教材も適切に配置されている。思考ツールや教材配置のバランスがよい。
- ・三省堂と光村図書は思考ツールが豊富。

(選定委員) 二次元コードに差はあったか？

(研究委員) 光村図書は作者のコメントが掲載されているなど、よかった。

(選定委員) 今の授業のなかで二次元コードは使用しているか？

(研究委員) 時間による。生徒が自主的に使う場面は多い。

(選定委員) 思考ツールはどちらも生徒が主体的に使えるものであったか？

(研究委員) 視覚化できるので、生徒自身の気づきにつながるものである。光村図書と三省堂は巻頭にまとめて掲載している。三省堂の方が種類は多い。

(選定委員) まとめの部分で、チャートなどわかりやすく表現されているものはあるか？

(研究委員) 教育出版は文字で説明が書かれてある。他社は図式化されて示されている。今の生徒には図式化されていた方が読みやすいのではないかと感じる。

(選定委員) 協働的な学びを続ける観点で見るとどうか？

(研究委員) 光村図書と三省堂がどちらも使いやすいように感じる。

(選定委員) 戦争を取り扱う話のバランスはどうか？

(研究委員) 光村図書は3学年でバランスよく配置されている。他者は一部の学年のみに掲載されているケースが多い。

<研究委員、退席>

(選定委員) 研究委員の中では三省堂と光村図書が良いといった意見が強いように感じた。

(選定委員) 科学的な文書の分量は、三省堂より光村図書が分量のバランスが良い。

(選定委員) 小学校とのつながりを考えても光村図書が良いように感じる。

(選定委員) 光村図書が二次元コードのバランスが良い。種類が豊富。

(選定委員) 思考ツールは、光村図書・三省堂がわかりやすく、2社で差は無い。

(選定委員) 光村図書は、思考の流れがわかりやすく表現されている。学習の流れもわかりやすく表現されているように感じる。

(委員長) それでは、光村図書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、光村図書とする。

【書写】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・光村図書 → 基礎基本の定着のために「学びの鍵」の工夫がある。話し合いがしやすくなる工夫がある。場面設定が詳しすぎて、内容が制限されることが心配。書き込み用の別冊があり、扱いが複雑になる可能性もあり。
- ・教育出版 → 図版が他社より大きい。見開きで見やすく、文字の基礎学習がしやすい。学びリンクで基礎学習が行いやすい。単元はじめに学習内容が表現され学習者が学習しやすい。ポップなど、様々な文字について考える機会となる。文字文化に触れることができる。
- ・三省堂 → 筆順の説明が非常に丁寧に示されている。毛筆と硬筆の関連が図りやすい。補充的な学習を促しやすい。願書やのし袋など、日常場面と関連づけやすい。毛筆教材が少ない。表記が小さくて扱いづらい部分もある。
- ・東京書籍 → 硬筆・毛筆ともに、わかりやすい筆遣いが示されている。「生活に広げよう」は日常場面につなげやすい内容が充実している。伝統的な用具や文字の変遷など、文字文化への理解が豊富。細かすぎて既習と関連が難しいと感じることもある。

(選定委員) どの教科書もよさと課題があることは分かった。東京書籍は資料が豊富である一方、多すぎると感じることもある。教育出版の特に良い点はあったか？

(研究委員) 良さとしては、学習活動が丁寧に示されている。単元の流れがわかりやすい。毛筆については、見開きで必要な項目を一度に見ることができる点である。

(選定委員) 生活に広げる視点で見ると、どの教科書がよいと感じたか。

(研究委員) 手紙、願書、ポップ、掲示物など、各社とも差が無く充実している。

(選定委員) 教育出版は目標からの流れがあったが、他社はどうか。

(研究委員) 東京書籍は「書写の鍵」が各単元に設定されている。

(選定委員) 教育出版の総評に、話し合い活動の観点が充実しているとあるが、どういったことか？

(研究委員) 具体的な話し合い場面が記されている。

<研究委員、退席>

(選定委員) 教育出版が、毛筆のページのわかりやすさや、学習の流れの視点では良い。

(選定委員) 他社は資料が多く感じる。資料のありすぎもよくない。

(選定委員) 国語の教科書とのずれがあっても問題ないか？

(選定委員) 基本的な話ほどの会社にも必要な事項は掲載されているので問題ない。

(委員長) それでは、教育出版を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、教育出版とする。

【歴史】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東京書籍 → 各章ごとに見通しのもちやすい工夫があった、二次元コードも充実していた。
- ・教育出版 → コラムや豊富な資料等、内容が充実していた。
- ・帝国書院 → イラストが豊富で、生徒にとって見やすい。SDGs の視点が充実している。
- ・山川出版 → 資料は豊富であったが、1 ページの文字数や文字の大きさ等、見づらさもある。
- ・日本文教出版 → 見開きで単元が見やすくなっている。端末の活用は行いやすい。家庭学習で活用できるテストの設定が良い。渋染め一揆の記載は本教科書のみ。
- ・自由社 → 資料に見やすさはある。
- ・育鵬社 → コラム等の情報量が多い。
- ・令和書籍 → サイズが他社より小さい。見開きで一時間構成になっていない。
- ・若手の教職員が多く、GIGA スクール構想下においては、見開きで一単位時間が示され、二次元コードが豊富な日本文教出版が使用しやすいように感じる。

(選定委員) 協働的な学びを進める観点でみるとどうか？

(研究委員) 課題設定が大事。そういった意味でも日本文教出版が良いといった意見が多かった。

(選定委員) 日本文教出版は、女性に特化した歴史表現や多彩な資料があるが、歴史の詳細の記述は少なく感じる。中学校の歴史レベルで考えると、どう考えるか？

(研究委員) 学習指導要領では「大まかな流れをつかむ」ことが大切と示されている。暗記科目としないためにも、記載が詳しすぎないことも大事と考える。

(選定委員) 二次元コードの多さは、東京書籍の方が良いように感じるがどうか？

(研究委員) 東京書籍は、二次元コードの接続先で検索が必要。接続先の資料の活用の面から考えると、日本文教出版の方がしやすい。

(選定委員) 岡山県の記載が豊富である方がいいのでは。

(選定委員) 意見書の中にも様々な意見が多い。

(選定委員) 日本文教出版教科書は、戦争等の扱いに配慮が必要な項目は無いかな？

(選定委員) 検定教科書でもあり、問題はない。

<研究委員、退席>

(選定委員) 説明を通して日本文教出版が良いように感じる。

(選定委員) 日本文教出版と東京書籍は生徒が話し合っている場面が多い。

(選定委員) 日本文教出版が男女協働参画の視点から見ても良い。

(選定委員) 日本文教出版は領土問題の記述は少ないが、最近の資料を取り入れた資料構成になっている。

(委員長) それでは、日本文教出版を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、日本文教出版とする。

【公民】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東京書籍 → 単元のまとまりを重視して構成されている。段階を追って学ぶ工夫がある。資料等の分量等は非常に良い。公民的な見方考え方については、鉛筆マークで記されているが、難易度が様々であり配慮が必要。
- ・教育出版 → 章のはじめに見通しをもちやすくするための工夫がある。思考・判断・表現の評価だけでなく、学びに向かう力の育成にもつながりやすい。思考ツールが充実しているが、使い方の説明は少ない。
- ・帝国書院 → 各章のはじめに立体的なイラストが有り、課題がつかみやすい。思考ツールがあり、巻頭でわかりやすくまとまっている。SDGs と地域学習の視点が充実している。内容も充実している。
- ・日本文教出版 → 少子高齢化の課題が大きく取り扱われている。SDGs も充実している。様々な社会の仕組みが図式化されている。取り扱う課題も生徒にとって身近なものとなっている。読みやすく、図表も見やすい。
- ・自由社 → 「ここがポイント」として、具体的な内容が記されている。まとめが丁寧に記されているので、生徒の授業中の気づきにつながりにくい。資料が大きく見やすい反面、情報量が少なく感じる。
- ・育鵬社 → 多くのグラフが掲載されている。「学びを深めよう」も学びに効果的。文字数の大きさや、資料の量が若干多いなど、生徒が活用することを考えれば、難しさもある。取り扱われるエピソードも若干古く感じる。
- ・6社を総合的に見ると、二次元コードは東京書籍と日本文教出版は1単位時間毎に配置さ

れている。また、帝国教育出版は適宜配置されている。

- SDGs は各教科書とも盛んに触れられているが、日本文教出版は少子高齢化が一番にあり、玉野の生徒には触れさせたい部分である。

(選定委員) デジタルコンテンツの充実についてはどうか？

(研究委員) 4社(東京書籍・日本文教出版・帝国書院・教育出版)は適宜配置資料集がなくても良い掲載量であった。

内容も似ているが、クイズやまとめの資料など、各社により工夫の違いはある。

(選定委員) 教科書の難易度はどうか。

(研究委員) 自由社・育鵬社は大人が読むことや、社会に興味がある生徒にとっては良いかもしれないが、公民が苦手な生徒には難しさもあるように感じる。

(選定委員) 小学校との関連の視点から見ても、日本文教出版の教科書のつくりは同じで、混乱は無く感じる。

<研究委員、退席>

(選定委員) 説明を通して日本文教出版が良いように感じる。

(選定委員) 親切すぎる教科書は良くない。

(選定委員) 一人一台端末がある中で、資料集の必要性をあまり感じない。登下校も考えると資料の充実は大事。そういう面からも日本文教出版がよいのでは？

(委員長) それでは、日本文教出版を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、日本文教出版とする。

【地理】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- 長く帝国書院を使用してきたが、偏り無くフラットに研究をしてきた。
- 帝国書院 → 扉ページやイラストマップがあってわかりやすい。図版はきれい。写真が大きく掲載されているが、掲載点数が少ない。資料はわかりやすい配置・構成であった。一カ所にまとめて二次元コードが掲載されているため、使用しづらさもある。
- 東京書籍 → 本文と資料を繰り返す記載になっている。内容が2ページに分かれていて使いづらさを感じる方もいる。資料は豊富にある。各章ごとに二次元コードが掲載されている。
- 教育出版 → 写真のレイアウトが整っていて、写真と説明の関連が明確。「工業」等、

産業別の記載ではなく、「広島」など地区で例示されており、他社とまとめ方が違う。テーマとの比較が行いやすい。外観の後まとめが設定されているため、課題解決学習に使用しやすい。各章ごとに二次元コードが掲載されている。

- ・日本文教出版→写真のレイアウトが整っていて、写真と説明の関連が明確。章の最後に議論をするテーマ設定がされており、活動が限られることも想定される。
- ・どの教科書も全体でSDGsに触れられている。
- ・帝国書院、日本文教出版は地図の明細や記述内容が非常に豊富。
(選定委員) 帝国書院や日本文教出版の違いは無く感じるが、どうか？
(研究委員) 日本文教出版の方が、教科書の構成が良い。今までは、概観、地理、自然、工業等と分けてあったが、日本文教出版は章をまとめた単元構成となっている。
(選定委員) 資料集の必要性は？
(研究委員) 社会科は様々な見方・考え方に触れさせたいため、副教材はいずれの教科書にしても必要と感じる。

<研究委員、退席>

- (選定委員) 二次元コードがまとまったページに掲載されていることが大きな違い。
- (選定委員) 日本文教出版の教科書の中に協働的な学びが組み込まれていることが良い。
- (選定委員) 小学校との連携も日本文教出版は図られやすい。
- (委員長) それでは、日本文教出版を選定することでよいか。
- (選定委員) よろしい。
- (委員長) それでは、日本文教出版とする。

【地図】

- (研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。
 - ・東京書籍、帝国書院ともに内容的に違いは無い。
 - ・2社を比較すると、帝国書院の方がテーマ毎に関連した内容構成となっており使いやすい。また、生徒がわかりやすい表記になっている。一つ一つの資料についても、充実しているように感じる。
- (選定委員) はっきりとした色合いで帝国書院が良いと感じる。
- (選定委員) 二次元コードは何が掲載されているか？
- (研究委員) 動画、グラフ等であった。

<研究委員、退席>

- (選定委員) 生徒が主体的になる学びを実現するための資料は、より帝国書院の方が充実し

ているように感じる。

(選定委員) 東京書籍は詳しすぎる。

(委員 長) それでは、帝国書院を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員 長) それでは、帝国書院とする。

【音楽・一般】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・どちらもよく作られているが、コンセプトが違うように感じる。
- ・教育出版 → 見やすく作られている。音符について調べられるようにしている。曲について 作曲者が大きく紹介されるなど、音楽について専門性が強い。楽譜表記が多い 活動の自由度が高い。曲の難易度が高く、週に1時間ぐらいではなかなか扱いづらい。
- ・教育芸術社 → どの曲についても二次元コードが掲載されている。曲について一般の方と曲との関連について記載されるなど、音楽と日常のつながりがもちやすい。あえて楽譜表記でない表し方も多い。活用の方向をある程度指定している。広く取り組みやすい工夫がある。

(選定委員) 実際にみると遜色なく感じるが、教育芸術社の方が苦手な子にも対応しやすいように感じる。指導者の力量にもよる。共通教材の配置等も含めてどうか？

(研究委員) 教育芸術社の方が、順を追って配置されており、学習者にとっても使いやすい。ジャンル毎にまとまっている。合唱曲はどちらもよい。教出は難易度が高い。

(選定委員) 教材の配列について違いがあるか。

(研究委員) 教育芸術社は、低学年から「身近」「日本」「世界」と発展している構成になっている。

<研究委員、退席>

(選定委員) 教育芸術社の方が、若手の教職員に取っては無理のない配置になっている。教育出版は急に難しくなる傾向もあり、ベテラン以外は使いづらさもある。

(委員 長) それでは、教育芸術社を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員 長) それでは、教育芸術社とする。

【音楽（器楽）】

（研究委員） 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・器楽についてもコンセプトが違うように感じる。
- ・教育出版 → 音楽について専門性が高い一方で、現在の音楽や生徒の身近な音楽との関連が図られにくい。難易度は高く設定がされている。
- ・教育芸術社 → 日常生活と音楽の関連をわかりやすく表記している。教育芸術社の方がデジタルコンテンツとのつながりがもちやすい。

（選定委員） なだらかに曲の難易度が上がる方が使い勝手が良いと説明にあった。また、二次元コードも充実とあったが、市内の生徒の状況を考えると教育芸術社が良いという認識で良いか。

（研究委員） 認識のとおり。

<研究委員、退席>

（選定委員） 教育芸術社の方が、二次元コードも充実している。

（選定委員） 難易度が急に上がらない方が良いのでは。

（委員長） それでは、教育芸術社を選定することでよいか。

（選定委員） よろしい。

（委員長） それでは、教育芸術社とする。

【数学】

（研究委員） 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東京書籍 → 身の回りと数学の関連を大切にしている。章末に問題解決の流れが表現されていた。二次元コードで教材が良かった。色が多く使われすぎているという指摘もあり。
- ・大日本図書 → 課題解決の学びの流れがわかりやすく書かれてあった。練習問題の量が多く、早く進む子への配慮があった。学び方を振り返る内容の設定があった。巻末の問題等が豊富で家庭学習にもつなげやすい。数学と社会とのつながりが良かった。デジタルコンテンツがはじめのページにまとまっていることはデメリット。
- ・学校図書 → 身の回りの事象からスタートする流れが組み込まれている。生徒同士の会話の場面が多く記載されている。学習内容のポイントがまとめられている。数学的活動の過程が示されている。計算分野で類題が豊富。レイアウトで途中から始まるなど、やや使いづらい面もある。
- ・教育出版 → 既習の確認から始まり、学びの確認と流れが良い。数学的な見方考え方がまとまっていて確認しやすい。基礎基本の定着が行われやすい説明があ

った。章末問題は難易度別の問題があり、活用しやすい。実生活との関連の記載も多い。素因数分解と累乗が別单元なのは若干違和感。数学を教え始める先生にとっては使いやすいが、まとめも書いてあるので、使い方に制限がある。

- ・啓林館 → 学習の流れが一つのパッケージになっており使いやすい。問題発見や問題解決がまとめてあり、各ページとの関連も図られやすい。デジタルコンテンツが充実している。使用しやすいところに配置されている。自主学習でも活用しやすい。「説明しよう」など学びを活用しやすい工夫があった。巻末には実生活との関連が示されていた。
- ・数研出版 → 数学的な見方考え方がまとめられていた。既習内容を振り返る内容があった。活動場面を中心にイラストの会話場面でわかりやすくする工夫があった。デジタルコンテンツが充実していた。反復練習が可能。巻末に公式や用語がまとめられていた。レイアウトにばらつきがある。
- ・日本文教出版 → 主体的に学習に取り組む態度について内容が充実していた。見開き2ページで見える化をしていた。見開き2ページでまとめられていた。デジタルコンテンツも充実している。関数のところでは自由にグラフがかけるような工夫もあった。最後に図形分野のまとめがあったが、図形以外のまとめはなかった。

(選定委員) 家庭学習の充実の視点から見ると、問題の質や量を含めて良い教科書はあったか。

(研究委員) デジタルコンテンツが使いやすいことが大事。啓林館は充実しており使いやすい。

(選定委員) 問題の量はどうか？

(研究委員) 各社とも差が無い。

(選定委員) 対話的な学びや、アウトプットの活動はどうか？

(研究委員) 啓林館はバランスの良さや「話し合おう」のコーナーなどバランス良く配置されていた。日本文教出版も巻頭の学び方の記載も充実しており、授業で活用しやすく感じる。

(選定委員) 学習の流れについて、各社ともに違いはあるがどうか？

(研究委員) 東京書籍の配列は若干難しいと感じる生徒もいるのではないかという意見もあった。

(選定委員) 先生としての使いやすさはどうか。

(研究委員) 研究委員の中では啓林館が使いやすさがあるように感じた。日本文教出版も非常に良いが、まとめが若干不足しているように感じた。

<研究委員、退席>

(選定委員) 日本文教出版のデジタルコンテンツは、生徒が活用しやすい部分もあってよい。

(選定委員) 啓林館は、デジタルコンテンツが何につながるかわかりやすくまとまっている。

子どもが活用することを想定すると、非常に良いのではないか。

(選定委員) 啓林館は授業の流れも違和感なくスムーズである。

(委員長) それでは、啓林館を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、啓林館とする。

【理科】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・実験観察が重要なポイントとともに、実験観察できない内容についての資料の充実について研究を行った。
- ・東京書籍 → 図が豊富に掲載されていた。また、課題が明確に示されていた。二次元コードも充実していた。考察しやすい配置であった。
- ・大日本図書 → 実験の際の着目点が明確に示されていた。二次元コードが適切に配置されていた。結果がはっきりと書かれているので良い面、結果のみを見てしまう可能性もある。版が小さく見づらさはあるのでは。
- ・学校図書 → 記述が詳細。仮説等についても詳細に記載がある。わかりやすい面、子どもに考えさせたい部分の記載もあるため、思考の妨げになるケースも想定される。量が多いことが活用面で見ると気になる。二次元コードは充実しているが、教科書の再構成のようなものが多く、使いづらさはある。
- ・啓林館 → 既習の確認ができる作りで有り、単元の前後で思考の深まりができるようになっている。振り返りも使いやすい工夫がある。生徒が考える余地をのこして適切な記載がある。二次元コードも必要な資料が掲載されている。教科書に書き込みがしやすく、家庭学習でも活用しやすい。
- ・教育出版 → 科学的な探求の中でわかりやすく示されていた。図が全体的に小さめ。実験にまとめが明確に書かれてあるため、思考の妨げになってしまうケースもあると考えられる。二次元コードはやや少ない。実験や観察結果が示されすぎている側面もある。

(選定委員) 実験の手順等のページを見たときに手順が細かく書かれているものもあれば、大まかに書かれているものもある。中学生としてはどこが良いか。

(研究委員) 実験方法について、東京書籍は非常に丁寧であるが、記載されすぎているようにも感じる。

- (選定委員) デジタルコンテンツの充実についてはどうか。
- (研究委員) 東京書籍や啓林館は非常に充実している印象ではあるが、多くありすぎるものの悪さもあるので、善し悪しがある。
- (選定委員) 他教科との関連については。
- (研究委員) どの出版社も SDGs 等の関連は書かれているため、特に差は無く感じる。
- (選定委員) 東京書籍と啓林館は優れているように感じるが、この2社についてはどうか？
- (研究委員) どちらも優れている。啓林館は見やすい図が多い。

<研究委員、退席>

- (選定委員) 東京書籍と啓林館は双方ともに差が無いように感じた。
- (選定委員) 自主学習をするなら詳しい方は良いし、授業の中で活用を目指すなら、詳しくすぎない方が良い。まずは授業で使うことを考えれば啓林館が良いのでは。
- (選定委員) 東京書籍は若い先生にとっては非常に使い勝手が良い。授業に幅を持たせるには啓林館が良い。実験後の考察の場面では、啓林館の方が理由に触れられているなど、思考を広げるには適している。
- (委員長) それでは、啓林館を選定することでよいか。
- (選定委員) よろしい。
- (委員長) それでは、啓林館する。

【英語】

- (研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。
- ・ 共通項目として、二次元コードは各社とも共通して充実している。
 - ・ 東京書籍 → デジタルコンテンツが充実しているが、非常に使い勝手が良い。一年生の1学期の内容等が小学校との接続が行いやすいようになっている。
 - ・ 開隆堂 → 発進力の育成に力を入れているように感じる。様々な発表場面が設定されている。スピーチ・ディスカッション・ポスターセッション等が充実している。
 - ・ 三省堂 → デジタルコンテンツとして文法の解説動画が流れるようになっている。
 - ・ 教育出版 → 教科書の大きさが小さくなっている。ページ数は多くなっているため、量の差は無いように感じる。会話文の例示が多様に使用されている。
 - ・ 光村図書 → 教科書の大きさが小さくなっている。ページ数は多くなっているため、量の差は無いように感じる。扉のページにスモールトークがあり、生徒が参考となるワードがまとまっているため、扱いやすい。
 - ・ 啓林館 → 見開き1ページに「読む・聞く・話す・書く」のすべてが網羅されている。
- (選定委員) どの教科書も構成がよく、巻末資料が豊富であった。今までは三省堂を使用し

ていたが他社の教科書の良さはどうか。

(研究委員) 三省堂と東京書籍の流れは非常に似ている。三省堂の方が、情報量が多いように感じる。語の量については、東京書籍と三省堂以外は非常に多く感じる部分もあったが、東京書籍と三省堂は400字程度でよい。

(選定委員) 小中接続は？

(研究委員) 各社とも、そこまで大きな違いがあるわけではない。単語については、既習が見えるようになっている。三省堂と東京書籍の1学期は、小学校の学習を生かしたものになっている。

(選定委員) 東京書籍の紙面的な見やすさは感じる。

<研究委員、退席>

(選定委員) 本市の生徒の状況を考えると、基礎基本の徹底は重要。特に見やすさの部分を重要に考えると東京書籍が良い。光村についても同様に見やすさはある。

(選定委員) 三省堂は一単位時間の中で扱う情報が非常に多く、授業の中で消化不良を起こしてしまう心配もある。

(委員長) それでは、東京書籍を選定することによいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、東京書籍とする。

【美術】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・開隆堂 → 生徒が主体的に取り組めるように、デジタルコンテンツにワークシートやコンテンツが提示されている。教職員の負担軽減に良い。各題材の取り扱われているページについて4ページで構成されていて、見応えがある。表紙は良い。中は光沢を感じにくく、作品の色合いが伝わりにくい。学習のポイントや解説は具体性に欠ける部分もある。
- ・光村図書 → 別冊の美術資料があり、3年間通して活用するためには良い。また、二次元コードの中に生徒のモデルとなる作品が非常に多く掲載されている。二次元コードを読むことで、高画質の作品が大きく拡大して見ることができる。日本の絵には和紙の質感など、興味をもたせる工夫がある。他社にはない工夫がある。
- ・日本文教出版 → 学びのはじめにが記載されており、動画等もあり生徒の意欲付けがなされている。自主学習での利用も十分想定されている。ICT活用についても教科書にマークで記載されている。屏風の絵についても構成が工夫されている。各ページに情報量が多く、見づらく感じる部分もある。導入からま

とめまでの流れが非常に明確。経験の浅い先生でも取り扱いやすい。

(選定委員) ゲルニカ・風神雷神の取り扱いの違いはどうか。

(研究委員) どの会社も見応えがあつて、差はあまり感じなかった。光村図書は360度対応しているあたりや、正面以外の人の目線に近い教科書がありおもしろい。

(選定委員) 漫画やフィギュアの取扱いは。

(研究委員) あまり差はないように感じるが、各社とも工夫している。

(研究委員) 開隆堂のワークシートは確かに良かったが、GIGA スクールの対応を考えると使いにくさもあるように感じる。

(選定委員) 同冊と別冊の扱い等は？

(研究委員) 授業者の裁量に任せられている部分があるので好みによると考えられる。

(選定委員) 文字等の大きさは問題ないか。

(研究委員) 日本文教出版は絵が小さく感じる。

<研究委員、退席>

(選定委員) 光村は資料の見せ方に面白さがある。作品と作品の背景が同時に掲載されており、思いを大事にされている。

(選定委員) 光村は紙を変えるだけでなく、漫画、動画撮影、ピクトグラム、トリックアートなど、美術という文化全体を見せようとしている部分はよい。

(選定委員) 経験の無い教員にとっては日本文教出版が良いが、今後の学びを考えると光村図書が良い。

(委員長) それでは、光村図書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、光村図書とする。

【保健】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東京書籍 → 文章と資料のバランスが良い。資料と説明をつなげる工夫があつてよい。ICT コンテンツとの関連が見やすくなっている。一単位時間の流れがわかりやすくなっている。
- ・大日本図書 → 見開きで構成されていて、わかりやすい構成になっている。教科書の中に話し合う活動や自分の考えをまとまる内容を適切に配置されている。グラフや表が多い一方、文章が少ない。
- ・大修館 → 自分の考えを書くことができる。1ページの文字情報が多く、情報が多すぎるように感じる。内容が濃い。

- ・学研 → 重要語句がまとまっている。二次元コードから外部リンクへ飛ぶ工夫がある。文字情報とグラフのバランスが良く扱いやすい。
- ・様々な学力差があるなかで、大修館は情報量が多すぎる印象。東京書籍と学研は文章とグラフ等のバランスが良く、使いやすくなっている。紙面の見やすさ等もあり、学研が良い。

(選定委員) 説明が非常にわかりやすかった。学力差があることを考えると、どの教科書が扱いやすいか？

(研究委員) 同じようにバランスがよいが、学研が外部リンクや活動の表が充実していた。授業者としても幅が広がるだけでなく、多様な生徒にも対応できるのではないかと考える。

(選定委員) 保健体育を日常生活に生かすことを考えると、学研が良いように感じる。

(選定委員) 生徒が普段の生活に生かせる教科書がよい。「学びを生かす」の内容は非常に良いのではないか。

<研究委員、退席>

(選定委員) 意見書の中に、大修館を推す意見が合った。性の多様性についての特集は確かに良い。

(選定委員) 性的マイノリティーは保健以外の分野でも取り扱うため、このことのみが選定理由にはなりづらいのでは？

(選定委員) 様々な生徒が使いやすいことが重要。

(委員長) それでは、学研を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、学研とする。

【技術】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・技術の見方考え方をいかに働かせるかを大切に研究した。
- ・東京書籍 → 読みやすい。内容が活動と座学が分けられている。ガイダンスの中で技術の見方考え方がはっきりと示されていた。日常の暮らしの中の問題解決が行いやすいものになっている。
- ・開隆堂 → 構成や資料の量は問題解決が中心。他者とのアウトプットがしづらい構成になっている部分もある。
- ・教育図書 → 作業の際に必要なものが別冊となり活用しやすい。パソコンの内容が少ないなど、若干内容が古く感じる。

(選定委員) アウトプットの部分の差があるか？

- (研究委員) 東京書籍は問題の解決場面が多く設定されている。
- (選定委員) 木材の性質を見ると開隆堂が見やすく、東京書籍は見づらいように感じるがどうか？
- (研究委員) 木材は加工や、特徴が大事ではあるが、木目までは扱わない。教科書の中には小さい文字がありすぎないことも重要。
- (選定委員) 別冊の有無の違いがあるがどうか？
- (研究委員) 作業の際には別冊があると確かに便利ではあるが、端末がある状況においては必須とは考えづらい。現在では、授業の中では動画が使われることが多い。
- (選定委員) 別冊の使用頻度はどうか？
- (研究委員) 教室を移動する技術科においては、あまり重視しない。
- (選定委員) 二次元コードの内容についてはどうか？
- (研究委員) ぴったりの内容が出るわけではなく、目次が出るようになっている。
- (選定委員) 技術の見方考え方を育てるためにはどうか。
- (研究委員) 課題解決の流れで構成されているのは東京書籍であった、技術科の見方考え方の獲得にも良い。

<研究委員、退席>

- (選定委員) 開隆堂の方が見やすさはある。
- (選定委員) 知識の専門書であれば開隆堂ではあるが、授業の中で学びを進める教科書で見ると、学びを進める東京書籍が良い。
- (選定委員) 他教科のつながりについて、東京書籍は明確に示されている。他2社については、示されてはいるが、詳しく書かれていない。特に技術科については他教科との関連は大事と考える。
- (委員長) それでは、東京書籍を選定することでよいか。
- (選定委員) よろしい。
- (委員長) それでは、東京書籍とする。

【家庭】

- (研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。
- ・東京書籍 → 自立と共生を目指す教科書であった。災害への対応について記載が充実し、防災教育が充実していた。一ページあたりの情報量は多い印象であった。
 - ・教育図書 → 問題発見から課題解決まで具体例が記されていて、ヒントが充実していた。地域の食文化についての記載が充実していた。
 - ・開隆堂 → 教科書全体について配色がよく見やすい。生活の課題発見から解決まで

見やすいものであった。文字情報や資料が少ない印象であった。

(選定委員) 開隆堂は資料集みたいであった。東京書籍はテーマに沿った流れであった。教育

図書は双方のいいところ取りであったように感じた。授業する際の問題は？

(研究委員) 東京書籍は文字情報が多く、教育図書は情報量や文字の大きさや色使い等で、授業で使用しやすく感じる。

(選定委員) 教育図書の食物アレルギー等の代用についての記載があることが良いと思った。他社はどうか？

(研究委員) アレルギーのところは、実際に対応する中で、教科書に記載されているとよい。何らかの記載はある。

(選定委員) 三社に大きな差は感じないが、大きな違いはあるか。

(研究委員) 授業の流れに沿って記載されているのは、東京書籍であった。

(選定委員) 二次元コードについての記載は？

(研究委員) どの教科書にも動画の説明があったりしている。

(選定委員) 防災の内容について東京書籍が充実していると感じた理由は？

(研究委員) 東京書籍は避難所等の記載が充実していた。

(選定委員) 3社を総合的に見たときに、情報量に違いがあると思うが、大きな違いと考えるか？

(研究委員) 教育図書の文字数が少なく、他社と比較して若干少なく感じたが、使用に当たっては問題ない。

<研究委員、退席>

(選定委員) 東京書籍については指導するフレームがある。教育図書は今までの使用の経緯もあり使用イメージがつきやすいのでは？

(選定委員) 大きな差はないと思う。見やすさは好みの部分がある。

(選定委員) 前回、開隆堂から東京書籍に変わったようだが、見やすさの部分が影響しているようだ。

(選定委員) デジタルコンテンツは東京書籍が充実している。

(委員長) それでは、教育図書を選定することでよいか。

(選定委員) よろしい。

(委員長) それでは、教育図書とする。

【道徳】

(研究委員) 研究報告書に基づき、各社の見本本について研究結果の概要を報告。

- ・東京書籍 → 様々な特性をもった生徒がいる中で、苦手意識を克服するための、すべての音声データが掲載されている。また、4コマ漫画やロールプレイなど、やってみて感じることが多い。定番の教材と、今日的な教材、身近な教材、情報モラル等のテーマが充実している。35時間分の教材+付録教材が掲載されており、様々な教育課程に対応可
- ・教育出版 → 二次元コードに資料はある。学びリンクによって参考資料が手に入るようになっている。30教材と5つの補助教材で構成されているため、独自教材は入れやすい。色味が押さえられている。
- ・日本文教出版→道徳ノートが付録している。ワークシート的なものを作らなくて良い反面、使い方が制限される悪さもある。道徳的価値観を高めていく作りになっている。
- ・光村図書 → 短い文章が多くなっており、読みやすい内容であった。9つのユニットで構成されている。巻末で一年間を振り返りやすくなっている。
- ・学研 → 主体的に学習に取り組むための4つのステップが記載されていた。二次元コードが充実し、発展的な内容につながりやすい。
- ・あかつき → アニメや四コマ漫画、著名人を取り扱った内容が多い。発問例が掲載されていることは非常によい。ロールプレイ等体験を通して学ぶことができるようになっている。
- ・日本教科書→ ウェルビーイングカードがあってよい。縦書きや横書き等、見やすさの面で配慮が必要。
- ・様々な工夫のある教科書が多くある。教科書によっては、似た教材を取り扱っているケースがある。
- ・外国人の多い玉野市において、国際理解は重要にしたい。東京書籍は充実しているように感じる。

(選定委員) 東京書籍、光村やあかつきが良いように感じたが、どうか。

(研究委員) 前は、光村は国語の教科書のように登場人物に共感する内容が多かったが、今回の教科書は少なくなった。改善されている印象。考えようや学びの道具箱など、作りが工夫されている。あかつきは、「マイクラス」「シンキング」など生徒と暮らしの関連が図られやすい。

(選定委員) 昔の教材と今日的な教材のバランスが大切と考える。昔からある教材が、東京書籍7あかつき10光村2個であった。どちらが良いか。

(研究委員) 古いからどうか、新しいからどうかについては、あまり関係が無い。今現在の人が出ることについては、生徒の食いつきが良い。古い教材は道徳の世界に入

ればやはり良い。

- (選定委員) 教科書に記載されている発問の数はどうか？
- (研究委員) 基本的には2つであったが、担任の裁量で使うか使わないか判断できるので、2つ程度であれば問題ないのではないかと考えた。
- (選定委員) 小学校は東京書籍を使っている。東京書籍は授業の流れは明確にされている良さもある。
- (選定委員) 教材の重複は無くしたい。以前からの教材はどこまで自分事として受け止められるかについては課題がある。光村は新しいものが多い印象がある。今の生徒のインパクトは光村が良い。
- (選定委員) 光村の学びの記録は毎時間であった。選定委員の中で意見は？
- (研究委員) 取り外しができる作りになっているため、取り扱いの配慮はメリットデメリットあるように感じる。
- (選定委員) 道徳的価値の項目が大事と考える。いい話だが、内容理解に時間がかかってしまうデメリットもある。そのあたりはどうか。
- (研究委員) 光村は、話が短くなっており、扱いやすくなっている。
- (選定委員) 葛藤させる部分ではどうか？
- (研究委員) どの教科書も目次の前後に話し合いの進め方が記載されている。自信を持って話ができるようになっている。
- (研究委員) 授業の視点の中で分量が大事ということが分かった。

<研究委員、退席>

- (選定委員) 東京書籍、光村、あかつきが良いように感じる。
- (選定委員) あかつきの教材が古いのは気になる。
- (選定委員) 35時間教材があることは良いのではないか。
- (選定委員) 光村図書の教材が短くなっているところと、教材が一新されているところはよい。
- (選定委員) 東京書籍の全教材に音読がついているのはよい。
- (選定委員) 東京書籍と光村を考えたが、いじめや命はユニットである必要はあるが、すべてがユニットである必要は無いように感じる。そういった意味では東京書籍がふさわしい。
- (選定委員) 東京書籍は考えるポイントを明確にしていることは良い。
- (委員長) それでは、東京書籍を選定することでよいか。
- (選定委員) よろしい。
- (委員長) それでは、東京書籍とする。